

7

『通いの場』を開設したい

身近な地域の人たちが集まって、楽しくしゃべって、笑い合う。困ったときには助け合い、お互いの暮らしを気にかける。そんな場所をみんなでつくってみませんか。

1

『通いの場』の情報を集めましょう

サロンなどをすでに行っている運営者の方に『通いの場』の立ち上げについて教えてもらうのもいいでしょう。

また、倉敷市健康長寿課、倉敷市社会福祉協議会、高齢者支援センターなどは、地域の『通いの場』の支援を行っているので、説明や運営についての情報提供ができます。(43ページ以降参照)

2

呼びかけをして仲間を集めましょう

お世話好きな人・地域のことをよく知っている人・気心の知れている人・地域の盛り上げ役・相談役や見守り役など、そんな方が近所には、たくさんいるはずです。

友達や、地域の仲間、民生委員、自治会、老人クラブなど、気軽にこれからやりたいこと、地域に必要なことを話して、参加を呼びかけてみましょう。



3

どんな『通いの場』にするか みんなで話し合きましょう

運営の仲間が集まってきたら、次はこれから目指す私たちの『通いの場』をどのようなものにしていくのか、みんなで話し合きましょう。

定期的集まっておしゃべりをするだけでも楽しいものですが、そこに体操を取り入れてみたり、季節に応じたイベントを開催したり、食事を作って食べたり、それぞれの『通いの場』に応じた工夫や特色があった方が、みんなの愛着が深まります。

『通いの場』はみんなが「参加者」ですが、やりたいことを提案したり、自分が得意な分野では、教える側に回ったり、みんなが「運営者」でもあります。



4

集まる場所を決めましょう

『通いの場』の会場はどこにしましょうか。地域の集会所や公的機関の部屋を会場とすることが多いですが、個人宅や空き店舗、カラオケボックス、スーパーのフードコートなど集う場所も様々です。なかには、「別に建物がなくても、座れるベンチと日影があれば、それで十分交流の場になる」とおっしゃる声もありました。



5

開催日を決めましょう

通いの場の開催日は「毎月第〇の△曜日」のように、定例化していることが多いです。

定期的に行うことで、「通いの場が生活リズムの一部になる」「先の開催日までわかるので、会場の予約がしやすい」などのメリットがあります。

近ごろは、毎週や週に数回開催する『通いの場』も増えてきていて、地域の居場所づくりがさらに活発になってきています。



6

サロン設立!「無理なく」・「みんなで」・「いつまでも」を目指しましょう

【運営】一人が頑張り過ぎず、上手に役割分担を心がけましょう。

会場の準備や、内容の企画など、一人だけで頑張り過ぎると、どこかで息切れをしてしまうかも…。通いの場はみんなが主役で、みんなが裏方!

通いの場にあまり参加しない印象の男性だって、しっかりと役割があれば積極的に参加してくれるかも。そんな良い雰囲気が続くことで、「これくらいなら私もできるかな」と新しい担い手や後継者が自然と集うのが理想です。



【資金】会場使用料・お茶やお菓子代・事務用品など、『通いの場』にもお金は必要! 運営を支援する倉敷市の補助金制度を利用しているところもあれば、毎回参加者が100円～300円程度の参加費を持参しているところもあります。下の「耳より情報!」では、独自の資金確保をしている場所をご紹介します。

耳より情報!

☆廃品回収で財源を確保!

一覧表No.148

☆手作り作品を販売!

一覧表No.180

寺田なごみの会(児島:通生)



毎月1回の廃品回収は、地域貢献の場、健康づくりの場、サロンの貴重な財源確保の場でもあります。

交流サロンふらっと(児島:下の町)



ネクタイを再加工して、素敵なバッグをつくったり、かわいい手芸の作品を販売して自分たちの活動の財源にしています。